

昨年12月2日、県議会で立憲民主党・民権クラブ県議団を代表して質問を行いました。

この中で私は黒岩知事に対して、これまで約12年間の県政について問い質し、今後県のトップとして、自画自賛的なアピールは控えるよう苦言を呈すとともに、現在行われている県事業の評価についても、独自によるものではなく、あくまで他の自治体との比較といった客観的指標を取り入れるよう、要請いたしました。



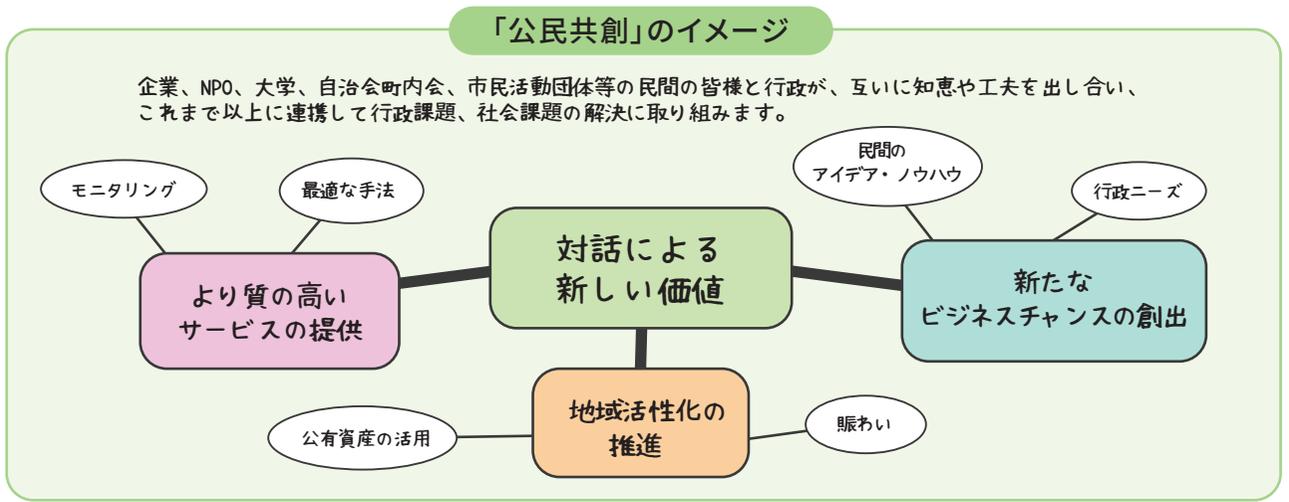
代表質問の動画はこちらのQRコードを読み取ってご覧ください →

## 公民共創で良い社会を創る

複雑・多様化する地域課題の解決に向け、行政側はNPO等に対する支援について、従来の手法を変えなければなりません。今後、行政側には民間等と「共に社会を創り上げる」という「公民共創」の姿勢が何より求められ、そのためにも行政側は意識改革と併せて、税制等の仕組みを変える必要があります。



加えて、行政側に民間人材の登用を拡大するとともに、公務員を民間等に派遣し「共創」を現場で徹底的に学ぶことが重要であると考えます。



## そのためにも教育に「課題解決型学習」を取り入れ、将来への競争力を育む

私は「公民共創」社会に向け、これまで学校教育において「課題解決型学習」を積極的に取り入れることを強く求めてきました。その理由はこれから困難な社会を生き抜くため、次世代を担う若者たちが生きた学びを実践する必要があるからです。

県議会で県教育長からは「生徒の探究的な学びの充実に向け、コンソーシアムの活用や庁内の各局との連携を進め、着実に推進する」との大変前向きな答弁を得ています。

こうした学習方法に私が県議会で提言し実現した「まなびや基金の事業提案型」を、学校ごとの創意工夫により着実に拡げることができれば、必ずや「質の高い教育」に繋がると考えています。

神奈川県議会議員 (横浜市青葉区選出)

政務活動レポート 第39号 (特別号)

# あかの赤野たかし



## 一步先を行く政治を

### 良い社会をつくるため、税金の使い道をかえる

私は40歳まで日本最大の財団法人に勤務し、永田町や霞が関と折衝しながら、国内外の様々な公益事業を「あくまで民間の立場」で支援してきました。ここでの最大の学びは「公の事業に官も民もない」ということです。加えて行政の事業は民間と比べ、仮に同じ「公の成果」を生み出せたとしても「非常に無駄なコストがかかる」ということです。

こうした原体験から私が県議会議員になってからというもの、税金の無駄遣いを正すため「県政の見える化」をはじめ、政令市との「二重行政」等の問題を議会で徹底的に質してきました。今の政府の肥大化してしまった財政構造に一石を投じ、日本に良い社会をつくるためには、何とんでも税金の使い道を変えていかなければならないのです。

## 赤野たかしが実現させてきた 県政の見える化 シリーズ

その1

会計の見える化

その2

県有施設の見える化

その3

県民利用施設の見える化

その4

県職員の人事評価の見える化

その5

さらなる会計の見える化

赤野たかし プロフィール [1969年9月生まれ] 家族は妻と子ども2人(青葉区で子育て23年)

- 明治大学経営学部 卒業
- 日本財団経営企画グループ室長など約 17年の会社員を経験後、衆議院議員江田憲司 秘書
- 41歳で神奈川県議会議員 初当選(現在3期目)
- 予算委員会副委員長・議会運営委員会委員・文教常任委員会委員
- 立憲民主党 神奈川県総支部連合会 幹事長

発行所 赤野たかし政務活動事務所 <2023年1月1日発行>

電話 045-517-4476 FAX 045-909-5322 ホームページ <http://gyoukaku.com>

〒225-0002 横浜市青葉区美しが丘4-1-1-101 Eメール: [takashi.akano@gmail.com](mailto:takashi.akano@gmail.com)

駅前などで見かけましたら、皆さんの声をお聞かせください。FacebookやTwitterなどでも情報発信をしています。





# 県議会

## 会派を代表しての質問

【2022年12月2日】

### 道半ばの「教員の働き方改革」にウェルビーイングの視点を取り入れる

私は初当選以来、当時まだ国において「教員の働き方改革」への議論が始まる以前から県議会で取り上げ、問題提起をし、解決を図ってきました。

それは、私の地元である横浜市青葉区の市立中学校の40歳の男性教員が不幸にも過労死で亡くなられてしまったという現実を目の当たりにしたからです。この教員は、朝7時前から学校に行き、夜9時近くまで残業し、家でも持ち帰り仕事をして、生徒が校外で問題を起こせば駆けつけ、保護者等からの苦情にも対応し、週末は部活動指導で休む暇がありませんでした。

あれから10年以上経過し、時間外在校等時間の縮減に少しずつ取り組みが進んでいることは承知していますが、抜本的な改善には至っていません。今後質の高い教育を実現するために必要なことは、現在、道半ばである「教員の働き方改革」に教員のウェルビーイング(満足度や幸福度)という考え方を取り入れ、教員が子供たちに真摯に向き合える環境をつくる必要があります。こうしたことを通じて「教員不足の解消」にも繋がります。県議会で県教育長からは「これまでの取組を検証し、教員のウェルビーイングを含め、様々な観点から『教員の働き方改革の指針』の改定について検討する」と、前向きな答弁を得ています。

率直に申し上げ、現政府の教育への課題に対する取組みは遅すぎると考えています。

### 知事のこだわりで始まった「県の未病改善」の成果とは？

青葉区は「平均寿命日本一」のまちですが、私は今後、日常生活が制限されずに過ごすことができる「健康寿命の延伸」に取り組む必要があると考えています。

県では2014年より、知事のこだわりで「未病改善の取組み」が始まったわけですが、それから5年後となる2019年に国が実施した都道府県別の健康寿命調査では、男性は全国平均と同程度であるものの、女性は全国平均を下回るという結果となりました(下表)。

これを受け、私は知事に対し「(知事は)未病の概念を拡がるということだけに固執し過ぎている。大事なことは、こうした取組みによって健康寿命の延伸や医療費の適正化、介護予防などに寄与することである。現時点でこうした県の取組みに対する明確な成果は出ていない。」と質しました。

これに対し知事からは「今後は県の未病の取組みがどのようにつながっているのか、わかりやすく示す。といった趣旨の答弁がありました。これでは事業を行う上で「目的と手段が全く定まっていない」と言わざるを得ません。

		男性		女性	
区分	神奈川県	全国	区分	神奈川県	全国
2019 (R1)	73.15 [+0.85]	72.68 [+0.54]	2019 (R1)	74.97 [+0.33]	75.38 [+0.59]
2016 (H28)	72.3 [+0.73]	72.14 [+0.95]	2016 (H28)	74.64 [-0.11]	74.79 [+0.58]
2013 (H25)	71.57	71.19	2013 (H25)	74.75	74.21
2013 →2019	+1.58	+1.49	2013 →2019	+0.22	+1.17

単位:年 [ ]内は前回との差  
健康医療局資料より抜粋して一部加工

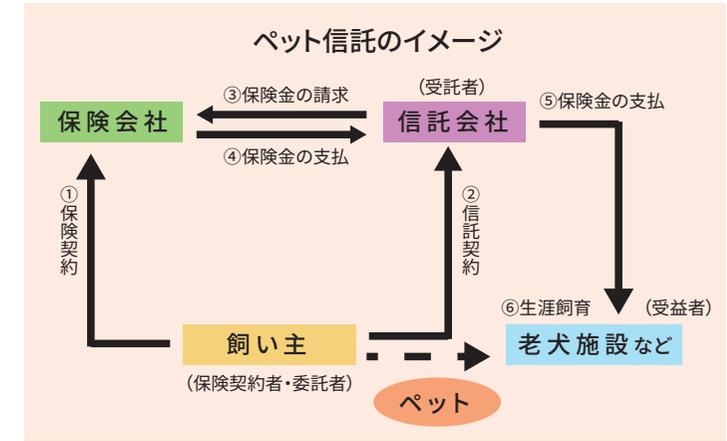
### 人生100歳時代における継続的な犬や猫の殺処分ゼロの取組みを提言

これまで県では「動物愛護センター」などで保護している犬や猫を譲渡する際には、原則、65歳以下の方に譲渡をし、65歳を超える方にあつては、最期まで責任を持って飼える状況であるかについて、かなり慎重に確認の上、譲渡を行ってきました。

そこで私は人生100歳時代において、65歳を超える方であっても、ペットとともに地域で心身ともに充実した生活を送っていただき、万が一の際には、安心して預けることができる先が決まっている「ペット信託」(右表)の制度を提言し、ボランティア団体等の負担が少しでも軽くなり、さらなる持続可能な殺処分ゼロが継続できる取組みを求めました。

知事からは「今後、ホームページやSNSを充実させ、65歳を超える方への譲渡について、具体的な事例を挙げて、分かりやすく、紹介していくほか、新たにリーフレットを作成し、老人クラブ等の高齢者団体へ配付するなど、様々な方法で周知に努めるほか、万一、飼えなくなった場合の動物の委ね先についても、丁寧にアドバイスし、必要な情報提供を行っていく。」とした答弁を得ました。

私は今後もこうした具体で建設的な施策を提言していく所存です。



### しがらみのない政治を行うことで、はじめて税金が社会に生きる

黒岩知事も3期目の任期終盤です。県がいくら自らの事業を独自で高く評価したところで、人口減少社会において比較されるべき対象は、他の自治体であると考えます。私からは今回、知事に「公民共創」という「あるべき社会像」を申し述べ、それにより課題解決への道筋をつけ、結果として「地域の魅力」を高めることを具体的に提言しました。

こうしたことを行う上で私たち地方議員が何より大事なことは、しがらみのない立場から、自らが地域で汗をかくことであると考えます。その積み重ねを行うことで、税金が社会に生き、次世代に明るい未来を創っていくことに繋がります。私はこれからも青葉区でこれを実践したいと思ひます。

